様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０３８１４

研究課題名（和文）18・19世紀における「習俗」の概念と公共空間の変容：劇場・都市・共和国

研究課題名（英文）Changes of the concept of mores and public space in the eighteenth and nineteenth centuries : theater, city and republic

研究代表者
富永　茂樹（TOMINAGA, Shigeki）

京都大学・人文科学研究所・名誉教授

研究者番号：３０１４５２１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の最終目標は、17世紀末から19世紀にかけて重要であった「習俗」という概念の理論と実践の変遷をとりわけフランスを中心にして、長期的な視座から解明することである。まず定期的な研究報告として、イギリスの17世紀における近代国家と習俗が混在する事象、フランス革命期における公共空間の多様性の諸条件を考察し、また習俗と近代国家の合法性とが混在する事象、さらには18世紀半ば以降は習俗概念にかわり「風土」「社交性」さらに「公共性」が登場する過程に注目した。

研究成果の概要（英文）：Our final aim is to enlighten the theoretical and practical changes of the concept of mores, fundamental between the seventeenth and eighteenth centuries, particularly in France, in a long-term historical approach.
This study will clarify some qualities of European societies in the eighteenth century thanks to the notion of “mores (moeurs)”, which is important in the understanding of social issues, and especially the plurality of society. We study social facts reflecting the “mores” and norms of modern State in the seventeenth century on one hand, and the conditions of plurality in the public space during French Revolution on the other hand, and finally the facts that bind morals to the legality of modern State. We focus on the process by which the concepts of “climate”, “sociability” and “publicity” emerge and tend to replace that of morals.

研究分野：社会史

キーワード：習俗　市民権　フランス革命　制度　統治

１．研究開始当初の背景

「習俗」という概念は今日こそ「風土」「社交性」さらには「公共性」といった意味で使われることは少ないが､18 世紀半ば以降は 17 世紀から 19 世紀にかけては「社会」とほぼ等しい意味で用いられる重要な概念であった。社会生活の歴史は政治や経済のそれとくらべて、論じられことは少なかったが、この歴史にふれることの意味はけっして小さくはない。とりわけ 17 世紀から 18 世紀のヨーロッパという、政治と歴史に加えて生活と文化が都市で大きく花開いた時代に注目することの意味は大きい。そこで「習俗」の果たした役割は無視できないであろう。これまでは充分に明らかにならなかったテーマ、たとえば生活文化がここで明らかになることが予想される。法が画一的な文化の中心になってきたのに対して、同じく規範のひとつである習俗＝生活はむしろむしろ多様な世界をつくってきた。その多様性を明らかにすることがこの研究の中心になる。

２．研究の目的

本研究の最終目標はかつて社会の理解のために重要であったこの「習俗」の概念の理論と実践の変遷を、とりわけ 17 世紀のイギリスと 18 世紀のフランスを中心として長期的な視座から解明することである。こうすることによって習俗の概念がとりわけに公共概念の形成においてはたした役割がこれまでにはわからなかったかたちで明確になってくる。

３．研究の方法

そのためにまず定期的な研究会を開いて、習俗概念の多様な意味を考察するとともに、18 世紀半ばからこの概念が次第に衰退し、それにかわって公共概念やまた社交性が登場してくる状況にも注目する。また公開の講演会や国際研究集会を開催するなどして内外への成果の発表に努める。

４．研究成果

まず定期的な研究会にかんしては、フランス革命期の習俗にかかわる概念を、その多様な使われ方と意味に着目して、さらに後半にはそれが次第に衰退してゆくなかでそれが「公共概念」や「社交性」にとってかわられるさまにも注目する。そのうえでそれらが習俗概念とくらべてどのような優位性と逆に限界とをもっていたのかを見てゆく。また、社交性の概念については、演劇、とりわけその言語・文学の側面はもちろんであるが、その劇場の構造や用いられ方、観客の様態にも目を向けて、そこでの習俗のありようなどを検討した。

また、2017 年にはフランスから政治社会学を専門とするピエール・ビルンボーム氏（パリ第一大学名誉教授）の講演会「フランス的な解放と啓蒙　1789 年からのユダヤ人を事例にして」を開催し、さらに 2018 年にはパリ政治学院において国際シンポジウム『ヨーロッパの公共空間における習俗概念（18 世紀から 19 世紀にかけて）』を開き、リュシアン・ジョーム氏（国立科学研究院名誉教授）やパトリス・ゲニフェー氏（国立社会科学高等研究院研究主任）および日本側数名が、参加・研究発表を行った。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 13 件）

(1) 稲永　祐介、「講演録 ピエール・ビルンボーム「国家とシティズンシップ　―フランス政治学に固有なパースペクティブはあるのだろうか？」、『日仏政治研究』、12号、2018、1-18

(2) 富永　茂樹、「第二期市民自治講座 トクヴィルと《平等》の政治哲学 (第1回) アメリカとフランスのふたつのデモクラシーをめぐって」、『市政研究』、195号、2017、76-94

(3) 富永　茂樹、「第二期市民自治講座 トクヴィルと《平等》の政治哲学 (第2回) 現代をも見通す「平等」と「不平等」をめぐる深い洞察」、『市政研究』、196号、2017、98-116

(4) 富永　茂樹、「第二期市民自治講座 トクヴィルと《平等》の政治哲学 (第 3 回) トクヴィルと日本」、『市政研究』、197 号、2017、68-83

(5) 稲永　祐介、「近代の統治技法としてのライシテ　―フランスの国家と政治文化」、『金城学院大学キリスト教文化研究所紀要』、21 号 別冊、2017、1-21
https://kinjo.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=949&item_no=1&page_id=13&block_id=17

(6) 稲永　祐介、「都市と国家の政治文化――社会的凝集性の比較歴史社会学」、『市大社会学』、14 号、2017、52-65、査読有
http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/soc/js/_src/632/14-4.pdf

(7) 川村　文重、「〈自由〉と〈専制〉の奇妙な結合―恐怖政治期 (1793-94)における〈活力énergie〉の語の変容を通して」、『慶應義塾大学日吉紀要フランス語フランス文学』、64号、2017、1-22

(8) 上野　大樹、「ポリシー・ポリス概念の歴史

的展開：近世イギリス宮廷における「立法者の科学」の伝統からスコットランド啓蒙へ」、『青山総合文化政策学』、9 巻 2 号、2017、37-69

(9) Chikako HASHIMOTO, « L'art culinaire, l'art de manger. La notion d'art autour de la table chez Grimod de la Reyniere », *La patrimoine en bouche, nouveau appétits, nouvelle mythologies*, 2016, 45-64

(10) 橋本　周子、「啓蒙の飲料：フランス革命前後期のカフェの変容と〈世論〉の実態」、『嗜好品文化研究』、2016、64-74

(11) Fumie KAWAMURA, « Le modelé chimique dans les jeux dialogiques sur la temporalité. Le Neveu de Rameau », *Diderot et le temps*, 2016, 93-114

(12) 上野　大樹、「アダム・スミスと政治哲学の革命：「ユートピア的資本主義」論の現代的再構成」、『人文学報』、107 号、2015、31-72

(13) Yusuke INENAGA, « La médiation des idées politiques françaises au Japon. Une approche comparative des conceptions de la souveraineté monarchique au XIXe siècle », *Revue Française d'Histoire des Idées Politiques*, 42, 2015, 141-166, 査読有
https://www.cairn.info/revue-francaise-d-histoire-des-idees-politiques-2015-2-page-141.htm

〔学会発表〕（計 26 件）

(1) 上野　大樹、「ケンブリッジ学派における啓蒙研究の〈穏和化〉とその批判——インテレクチュアル・ヒストリーの近年の動向についてのひとつの概観」、第 13 回一橋哲学・社会思想セミナー「公共性の思想史へ(3)：ジョナサン・イスラエル『精神の革命』をめぐって」、2018、一橋大学（国立）

(2) Fumie KAWAMURA, « Fabriquer des hommes énergiques : une modalité dans la révolution des mœurs sous la Terreur », Colloque international "Le concept de mœurs dans l'espace public européen"（国際学会）, 2018, CEVIPOF Science Po, パリ（フランス）

(3) Hiroki UENO, « L'idée de mœurs dans la tradition civique écossaise et son influence : de Hume et Smith à Condorcet », Colloque international "Le concept de mœurs dans l'espace public européen"（国際学会）, 2018, CEVIPOF Science Po, パリ（フランス）

(4) Hiroki UENO, "The Theory of Natural Sociability in the Moderate and Radical Enlightenment : The Case of Adam Smith," PoETS (Political Economy Tokyo Seminar), 2018, University of Tokyo（東京）

(5) 川村　文重、「科学的メタファーの行方－〈メルティング・ポット〉」、第 10 回サイエンス・メルティング・ポット（招待講演）、2017、慶應義塾日吉キャンパス来往舎（神奈川）

(6) 上野　大樹、「文明社会としての君主制国家——人文主義的君主論の系譜とヒューム政治思想」、一橋大学哲学・社会思想学会 第 22 回大会、2017、一橋大学（国立）

(7) 上野　大樹、「歴史叙述がなぜ重要なのか？——人文主義政治思想史研究から」、セッション「ヨーロッパ啓蒙期の歴史叙述」、社会思想史学会第 42 大会、2017 京都大学（京都）

(8) 上野　大樹、「君主主義と共和主義——ケンブリッジ学派の諸研究にみる人文主義的統治術とスコットランド啓蒙」、日本 18 世紀学会 第 39 回全国大会、2017、立教大学（東京）

(9) 上野　大樹、「思想史研究の隠されたモデルとしての政治哲学——アーレント・シュトラウスから近世人文主義へ」、ワークショップ「政治哲学と人文主義の伝統———初期近代における〈歴史哲学〉再考」、日本哲学会第 76 回大会、2017、一橋大学（国立）

(10) Hiroki UENO, "Polanyian Impact on French Political Philosophy: The Idea of 'capitalisme utopique' and a Social Interpretation of Adam Smith", The 14th International Karl Polanyi Conference（国際学会）, 2017, Seoul City Hall, ソウル（韓国）

(11) Yusuke INENAGA, « Formation de mœurs civiques depuis 1790 : un modèle d'autonomie électorale », Colloque international "Le concept de mœurs dans l'espace public européen"（国際学会）, 2018, CEVIPOF Science Po, パリ（フランス）

(12) 橋本　周子、「太った身体のアンビバレンス——食べる者へのまなざし」、女性歴史文化研究所第12プロジェクト研究会（招待講演）、2017、京都橘大学女性歴史文化研究所（京都）

(13) 稲永　祐介、「フランスにおける社会運動の変容とポピュリズム　—ピエール・ビルンボームの集合行動論をめぐって」、第 90 回日本社会学会大会、2017、東京大学（東京）

(14) 稲永　祐介、「フランス政治社会学の系譜　—国家とシティズンシップの歴史的アプローチ」、日本社会学史学会・関西例会（招待講演）、2017、京都大学（京都）

(15) 稲永　祐介、「フランスの政治文化としてのライシテ―― 近代の統治技法、あるいは共和国のイデオロギー？」、社会における脱宗教（ライシテ）について考える(日本ケベック学会とベルギー研究会の共催)、2017、金城学院大学キリスト教文化研究所（名古屋）

(16) 稲永　祐介、「ヨーロッパ中世都市の共和的自治モデル—14世紀イタリアにおける社会的凝集性の基層—」、第3回共同研究会（国際学会）、2016、釜山大学校韓国民族文化研究所、釜山（韓国）

(17) 稲永　祐介、「第三共和政期の農業組合と教育同盟――「強い国家」モデルの再考」、169回（再編44回）関西フランス史研究会例会、2016、京都大学楽友会館（京都）

(18) 稲永　祐介、「国家への忠義：国家エリートの比較歴史社会学」、2016 年度日本政治学会大会、2016、立命館大学（大阪）

(19) Yusuke INENAGA, « Une logique de soutien a la lignée unique de l'empereur japonais : l'ethnicisation des cultes autochtones au XIXe siècle », Colloque international : Les religions face aux théories et aux politiques de la race - XVe-XXIe siècle（国際学会、招待講演）, 2016, GSRL et Université du Maine、ル・マン（フランス）

(20) 橋本　周子、「近代的な〈食〉のはじまり、フランスの場合」、食文化原論研究会、2016 京都府立大学（京都）

(21) 橋本　周子、「江戸中後期における〈食通〉論について（フランスとの比較をてがかりに）」、武庫川女子大学生活美学研究所研究会（招待講演）、2016、武庫川女子大学生活美学研究所（兵庫）

(22) 川村　文重、「フランスを中心とした『エネルギーénergie（energy）』の概念形成史の研究－ルネサンスから18世紀末まで」、慶應義塾大学日吉商学部研究紹介の会（招待講演）、2016、慶応義塾大学日吉キャンパス来往舎（神奈川）

(23) 稲永　祐介、「19世紀フランスと日本における不敬の刑罰化— 国家の比較歴史社会学の試みとして」、第88回日本社会学会大会、2015、早稲田大学（東京）

(24) Yusuke INENAGA, « L'inspiration sacrificielle dans les mœurs républicaines : le paradoxe de l'individuation dans le concept maussien de nation », Congres de la Société Suisse de Sociologie 2015（国際学会）, 2015, Université de Lausanne、ローザンヌ（スイス）

(25) Chikako HASHIMOTO, "Literary Circles and the Memory of Taste : On Shihonzo, Another Style of Gastronomic Text", International Society for Eighteenth-Century Studies（国際学会）, 2015, Erasmus University Rotterdam、ロッテルダム（オランダ）

(26) Yusuke INENAGA, « La légitimation de l'Empire japonais : le fantasme d'un imaginaire civilisateur de l'Asie (1868-1931) », Colloque interdisciplinaire : Aujourd'hui l'Empire, héritage et nouveauté（国際学会）, Université de Rennes 1、2015, レンヌ（フランス）

〔図書〕（計 4 件）

(1) 川村文重　他、「物質と精神のあいだ　――十八世紀化学における活力概念の両義性」、法政大学出版局、『百科全書の時空　典拠・生成・転位』、2018、406（299-324）

(2) 川村文重　他、「秩序の回復と回復の秩序—ディドロ『ラモーの甥』における政治的可能性」、『講義　政治思想と文学』、ナカニシヤ出版、2017、400（89-122）

(3) Yusuke INENAGA et d'autres, « État et religion dans le processus de la sacralisation de l'Empereur : une sociologie politique du sacrilège », *Japon Pluriel 11 - Le Japon au début du XXIe siècle*, Paris, Editions Philippe Picquier, 2017, 432 (319-327)

(4) Yusuke INENAGA, *L'allégeance a l'Etat moderne. construction de la morale politique en France et au Japon*, Paris, L'Harmattan, 2015, 523

〔その他〕

ホームページ等

http://www.mfj.gr.jp/agenda/2017/05/19/20170519_birnbaum/index_ja.php

https://www.sciencespo.fr/evenements/?event=le-concept-de-moeurs-dans-lespace-public-europeen-xviiie-et-xixe-siecles

６．研究組織

(1)研究代表者

富永　茂樹（TOMINAGA Shigeki）
京都大学・人文科学研究所・名誉教授
研究者番号：３０１４５２１３

(2)研究分担者

橋本　周子（HASHIMOTO Chikako）
滋賀県立大学・人間文化学部・助教
研究者番号：３０７２５０７３

上野　大樹（UENO Hiroki）
一橋大学・大学院社会学研究科・日本学術振興会特別研究員PD
研究者番号：００７２７７７９

稲永　祐介（INENAGA Yusuke）
大阪市立大学・大学院文学研究科・学外研究員
研究者番号：８０７５７９３０

川村　文重（KAWAMURA Fumie）
慶應義塾大学・商学部（日吉）・准教授
研究者番号：４０７５９８６７

(3)連携研究者

北垣　徹（KITAGAKI Toru）
西南学院大学・文学部・教授
研究者番号：５０２８３６６９

(4)研究協力者

ビルンボーム、ピエール（BIRNBAUM, Pierre）パリ第 1 大学・名誉教授

ジョーム、リュシアン（JAUME, Lucien）
国立科学研究センター・名誉主任研究員

ゲニフェ、パトリス（GUENIFFEY, Patrice）
フランス国立社会科学高等研究院・研究主任

シャバネット、ロリス（CHAVANETTE, Loris）
フランス国立社会科学高等研究院・研究員

定森　亮（SADAMORI Ryo）
慶應義塾大学・経済学部・非常勤講師